ポジティブな思い出からみた帆船実習の教育効果

正会員　○行平　真也（福岡工業大学環境科学研究所）　正会員　藤原　紗衣子（神戸大学）
正会員　國枝　佳明（東京海洋大学）　正会員　藤本　昌志（神戸大学）

要旨

日本海運界の変革を受け、教育をはじめとする、船員を取り巻く環境が変動し続けている一方で、航海訓練所における帆船実習は一貫して行われている。本研究では、その帆船実習の教育効果を明らかにするための予備的な調査として、帆船実習経験者の抱く「帆船実習におけるポジティブな思い出」に注目し、教育効果について検討を行った。乗船経験者を対象とした質問紙調査により得た自由記述回答を計量テキスト分析し、より多く抽出された語の中に、帆船教育の教育効果が表れていると仮定し、分析、考察した。その結果、「自然」、「実習」、「経験」、「海外」、「帆船」、「航海」、「楽しい」、「思い出」、「作業」、「仲間」の語が抽出され、特に最も多かった「自然」については、帆船実習により自然に対する畏敬の念や、航海を通じて感じた自然についての記述が多く見られた。

キーワード：教育・訓練、帆船、思い出、計量テキスト分析

1. はじめに

日本海運界の変革を受け、教育をはじめとする、船員を取り巻く環境が変動し続けている一方で、航海訓練所における帆船実習は一貫して行われている。本研究ではその帆船実習の教育効果を明らかにするための予備的な調査として、帆船実習経験者の抱く「帆船実習におけるポジティブな思い出」に注目し、教育効果について検討を行うことを目的とした。

2. 方法

2.1　分析対象

大型練習帆船（海王丸・日本丸）における帆船実習の経験者を対象とした。なお、1 ヵ月以上の帆船実習を受講したことがあると回答した 155 名を有効回答とした。ポジティブな思い出の回答は 152 名から得た。

2.2　調査時期と方法

2013 年 12 月から 2014 年 1 月にかけて、東京海洋大学（旧東京商船大学）及び神戸大学海事科学部（旧神戸商船大学）の卒業生を中心に機縁法により質問紙を配布し実施した。

質問紙の構成は、回答者の属性、帆船実習のポジティブまたはネガティブな思い出について問う設問（教示文の例：「「帆船実習」のポジティブな思い出について、単語のみ、文章、どちらでも結構ですので、自由に記述してください。」）、本質問紙への意見・感想を問う項目から構成した。

2.3　分析方法

本報告においては、ポジティブな思い出の自由記述回答について、データのクリーニングを行った後、計量テキスト分析ソフトである KH Coder[1-2]を使用し、計量テキスト分析を行った。そして、より多く抽出された語の中に、帆船教育の教育効果が表れていると仮定し、分析、考察した。

3. 結果

回答者の属性について、有効回答 155 名のうち、男性 140 名、女性が 15 名と男性が圧倒的に多かった。年代については 20 歳代から 70 歳以上であり、特に 30 歳代が 51 名、40 歳代が 48 名と多かった。学んだ学校については、旧東京商船大学などの商船系大学に学んだとした回答者が 114 名と最も多く、また商船高等専門学校で学んだとした回答者が 36 名みられた。なお、商船高等専門学校から商船系大学に進学する例もあるため、回答は重複する。

計量テキスト分析の結果、ポジティブな思い出の自由記述回答の総抽出語は 7,087 語、語の種類は 1,230 語で、そのうち分析に用いたのは 997 語であった。

抽出語の出現回数は「自然」、「実習」、「経験」、「海外」、「帆船」、「航海」、「楽しい」、「思い出」、「作業」、「仲間」の順に多かった。

最も多かった「自然」については、帆船実習により感じた自然に対する畏敬の念や、航海を通じて感じた自然についての記述が多く見られたことから、

実習により「自然」に畏敬の念を覚え、「自然」を体感したことが示唆された。2番目に多かった「実習」については、そのほとんどが思い出の説明に用いられていた。同様に、「経験」については「帆船に乗るという経験ができた」など貴重な経験だったことについて、自身の体験の説明に用いられていた。「海外」については海外に行けたことを思い出として記載する事例が多かった。

これらの結果に加え、帆船実習の教育効果に関する既往の研究を踏まえ、教育効果について考察を行った。

参考文献

(1) KH Coder ホームページ:
http://khc.sourceforge.net/

(2) 樋口耕一:社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して，ナカニシヤ出版，2014.